

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2025 Nov

第128号

発掘調査
整理遺跡
紹介

村上市上野遺跡

新潟市秋葉区沖ノ羽遺跡

企画展2「発掘！新潟の遺跡2025」・第29回遺跡発掘調査報告会紹介、埋文コラム、県内の遺跡・遺物



上野遺跡現地説明会
この日ばかりは大サービス



2025年度
発掘調査
遺跡の紹介

上野遺跡

— 縄文時代後期の大規模集落 —

所在地：村上市猿沢・檜原

みおもてがわ たかねがわ せんじょうち
三面川の支流・高根川右岸の扇状地に立地する
かみのいせき
上野遺跡は縄文時代後期前葉（約4,000年前）の
大規模集落です。これまでにどしやりゅういき
土砂流域と集落域
を調査し、たてあなたても ほったてぼしらたても へいちたても
堅穴建物、掘立柱建物、平地建物、
しきいしたても しょうじんこつしゅうせきどこう
敷石建物、焼人骨集積土坑、土坑、自然流路など
13,000基を超える遺構を検出し、大量の土器・石器
が出土しています。

上野遺跡の遺物包含層はⅢa層・Ⅲb層・Ⅲc層・Ⅲd層に区分できます。2025年度の調査では、焼人骨土坑の切取り作業や2024年度調査区のⅢd層の調査、これまで調査区の入口であったため調査ができなかった範囲の調査、試掘により縄文時代前期の遺物が出土した範囲の調査を実施しました。

縄文時代前期の遺物が出土する層は後期の地層から約1.2m下にあり、約240m²を対象に調査しました。これまでの調査でも2018年と2020年に前期

の層の調査をしています。2025年度は土器・石器が出土し、口縁部付近から底部まで接合する土器も出土しています。遺構は見つかっていませんが、地域の歴史を語るうえで重要です。

遺跡の北西隅に設定した調査区では、縄文時代後期前葉の平地建物2棟、土器片円板が重なって出土した遺構を検出しました。上野遺跡の集落の中心部から北に向かって、建物が少なくなる傾向がありましたが、遺跡の北西隅まで集落域が広がっていることが判明しました。

また密集して焼人骨が埋まっている土坑を検出したため、遺構の切取り作業を実施しました。新潟医療福祉大学に運び、土壌を丁寧に取り除いたところ、話題となった焼人骨集積土坑（SK439）に次ぐ規模の範囲に焼人骨が集中していることが分かりました。現在、取上げ作業を進めています。（加藤元康）



縄文時代前期の土器の出土状況



縄文時代後期の土器の出土状況



縄文時代後期の平地建物



新潟医療福祉大学に運んだ焼人骨土坑



2025年度
発掘調査
遺跡の紹介

沖ノ羽遺跡

—古代から中世の水田と道路—

所在地：新潟市秋葉区なのかまち七日町

沖ノ羽遺跡は日本海に面する海岸沿い70kmにわたって発達した新潟砂丘I（約7,600～4,800年前に形成）と、高立山や菩提寺山、金比羅山からなる新津丘陵の間

に立地しています。沖ノ羽遺跡は、新潟県埋蔵文化財調査事業団によって磐越自動車道工事に伴う調査が2回行われており、2025年度が第3次調査となります。また、本調査区周辺では、ほ場整備に伴い新潟市文化財センターによる調査が24回行われており、今回の調査区から北側では平安時代の掘立柱建物・井戸などを含む居住域が確認されています。

第3次調査範囲は、過年度調査区の北側にあたる14・15区の2か所です。鎌倉時代・平安時代・古墳時代の遺構・遺物を確認しています。今回見つけた遺構・遺物は平安時代が主体であり、ほかに鎌倉時代の遺構があります。戦後の水田整備などに伴う削平の影響を受けており、鎌倉時代とした遺構の検出面は大半が平安時代と同一面です。また、古墳時代の遺構は本調査区が居住範囲外であったためか、今回の調査では認められませんでした。

14区では平安時代や鎌倉時代に機能していたと考えられる溝15条・土坑2基・ピット12基・性格不明遺構1基が見つかりました。そのうち、溝SD22・24は検出した位置や断面形・堆積土の特徴から過年度の溝SD151・157と同一の溝と考え

られます。両溝は過年度調査区南西側から14区東側にかけて約150mにわたって並行（間隔約2m）して伸びることがわかりました。下層である古墳時代の遺構は確認できませんでしたが、調査面の精査中に土師器細片が1点出土しました。

15区では平安時代と考えられる溝1条・ピット1基と、鎌倉時代と考えられる水田跡・溝2条・性格不明遺構3基を見つけました。そのうち溝1条は水田畦畔に伴う溝と考えられます。水田跡は標高が30～40cmほど下がる東側に広がっており、南北に延びる畦畔5条によって東西に、それに直行する畦畔1条によって南北に分けられる7～8区画を確認しました。下層である古墳時代の調査では、地震の痕跡である噴砂が確認できましたが、調査区内が削平されているため、地震の発生時期については不明です。

第3次調査区は両区とも狭く、遺構の全体像を把握するには、隣接する調査区の成果と合わせて検証する必要があります。14区の溝SD22・24は並行して延びている点に特徴があり、本調査区北側の居住域と15区で確認した水田跡を含む生産域とを分けるために設置された道路の可能性もあります。引き続き見つけた溝や水田の位置関係などを検証し、沖ノ羽遺跡における当調査範囲の性格について明らかにしていきます。

（株式会社イビソク新潟支店 稲垣裕二）



溝SD22・24完掘（東から）



水田跡検出状況（東から）



埋文
インフォ
メーション

2025年度企画展 2

「発掘！新潟の遺跡2025」

1月17日（土）～3月15日（日）（期間中無休）

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団が実施した最新の発掘調査の成果を出土品や写真で解説します。2025年度に発掘調査を実施した村上市上野遺跡（縄文時代後期）、柏崎市丘江遺跡（奈良～平安・鎌倉～室町時代）、南魚沼市六日町藤塚遺跡（古墳・飛鳥～奈良・平安時代）、南魚沼市金屋遺跡（平安時代）、上越市三和区古屋敷割遺跡（古墳・平安・鎌倉～室町時代）、上越市三和区弥五郎遺跡（古墳・平安時代）、新潟市秋葉区沖ノ羽遺跡（古墳・平安・鎌倉時代）を展示します。是非ご覧下さい。



古屋敷割遺跡 ピットから出土した平安時代の土器

◆観覧無料

◆会 期：2026年1月17日（土）～3月15日（日）

◆時 間：9：00～17：00

◆会 場：新潟県埋蔵文化財センター

◆関連催物

・発掘こぼれ話

1月21日（水）、2月18日（水）

いずれも13：50～15：20

定員：会場80名（当日先着）

参加無料



上野遺跡 縄文時代後期の土器

第29回遺跡発掘調査報告会

3月8日（日）10：00～16：00

2025年度の調査成果報告、および縄文時代後期の村上市上野遺跡について、「燃やす縄文人？縄文時代の^{とむら}吊り方」をテーマにしたシンポジウムを行います。上野遺跡は全国的に見ても稀な縄文時代の焼人骨集積土坑が複数見つかった遺跡です。詳細は企画展2チラシ、HPをご覧ください。

◆開催日：2026年3月8日（日）

◆時 間：10：00～16：00

◆会 場：新潟県埋蔵文化財センター

定員：会場80名（当日先着）参加無料
（オンライン配信あり。要申込）

◆内 容

○2025年度の調査成果報告（柏崎市丘江遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡、上越市三和区古屋敷割遺跡、上越市三和区弥五郎遺跡、新潟市秋葉区沖ノ羽遺跡）

○シンポジウム「燃やす縄文人？縄文時代の吊り方」

・村上市上野遺跡の調査成果と焼人骨の検出状況
・人類学からみた焼人骨（奈良貴史氏／新潟医療福祉大学）

・パネルディスカッション



埋文
コラム

かんじょうかがみいたつきくつわ
環状鏡板付轡って何だ？

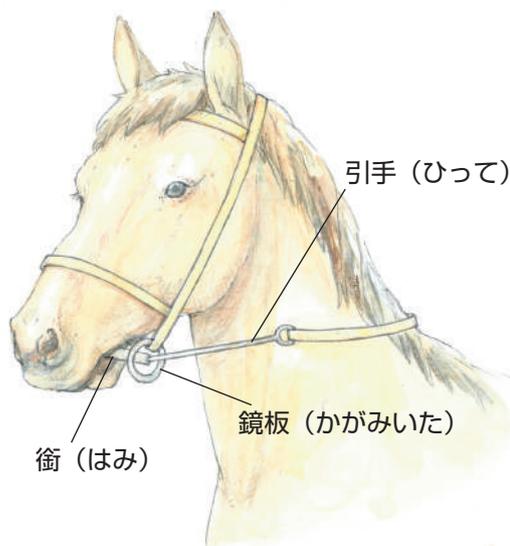
—南魚沼市金屋遺跡出土の馬具—

みなみうおぬましかなやいせき
南魚沼市金屋遺跡からは、平安時代の鉄製馬具（轡）が出土しています。轡は馬の口にはめて馬を操作するための道具です。平安時代の鉄製馬具出土は県内初で、非常に貴重な資料です。そこで今回は、この轡について詳しく紹介します。

轡は、鏡板（銜が外れないための金具）、引手（馬を操作するためのハンドルの役割をする金具）、銜（馬の口に入れて、騎乗者の意思を馬に伝える金具）の3つのパーツから構成されます（第1図）。金屋遺跡から見つかった轡は、鏡板が環状になる「環状鏡板付轡」と呼ばれるタイプの轡になります（写真1）。この轡、実は平安時代よりも300年以上前の古墳時代の遺跡（古墳）から多く見つかるのですが、形がほとんど変化することなく平安時代まで作られ続けます。なぜでしょうか。それは「環状鏡板付轡」の構造に理由があります。古墳時代には、鏡板に金メッキや透かし彫りといった装飾を施した「絢爛豪華な」轡が盛んに作られます。代表的なものに、奈良県藤ノ木古墳から発掘された轡があります（写真2）。このような轡の製作には、非常に高度な技術と金や銅など希少な材料が必要で、まさに「高級品」といえます。このような煌びやかな馬具を保持することが、当時の有力者にとって一つの「ステータスシンボル」であったといえます。

一方、環状鏡板付轡は、鉄棒を環状に成形することで鏡板を作るため、先ほど紹介した藤ノ木古墳など装飾を施した轡に比べると製作にかかるコスト（作業工程や材料の調達など）を低く抑えることができます。また構造上、引手の可動域が広いので騎乗者の意思を馬へうまく伝達させることができるため、馬をコントロールするのに長けた非常に「実用的な」轡といえます。このため古墳時代以来、この環状鏡板付轡は長らく騎乗用に特化した実用馬具（田中 2011）として平安時代まで作られ続けます。ちなみに、現代の競走馬が装着する轡である「水勒」の基本的な構造は、環状鏡板付轡とほとんど同じです。金屋遺跡から見つ

かった轡は、古代魚沼の地を駆け巡った騎馬の姿を如実に物語るものといえます。



第1図 轡の模式図（野崎裕美作図）



写真1
金屋遺跡の轡



写真2
藤ノ木古墳の轡

写真1は報告書『第296集金屋遺跡Ⅳ』から、写真2は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1997から引用

（田中祐樹）

【参考文献】

田中祐樹 2011「造り付け立開環状鏡板付轡の出現と展開」『歴史民俗研究』第8輯 板橋区教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 1997『大和の考古学』



2021年3月26日 新潟県指定有形文化財〔考古資料〕

県内の
遺跡・遺物
123

山草荷遺跡出土品 45点

遺跡所在地：新発田市草荷

遺物保管：新発田市（新発田市教育委員会文化行政課）

山草荷遺跡は、新発田市草荷にある弥生時代中期後半を主体とする遺跡です。新潟砂丘の最も内陸側にあたる新砂丘列Ⅰ-1に立地し、遺跡の南東側に広がる低地を望む微高地上の遺跡です。

本遺跡は、昭和初期に地元の地域史研究者である大木金平氏によって調査され、多数の弥生土器が発見されました。大木氏が、調査成果を『中部考古學會彙報』に報告したことをきっかけに、多くの弥生土器研究者らが資料調査に訪れました。中でも、当時『弥生式土器集成図録』の作成を進めていた小林行雄氏は本資料の代表的な土器を図示・報告するとともに、同書の中で「越後A様式」として新潟地方の弥生土器の様式を設定しました。その後も、新潟を代表する弥生土器の一群としてたびたび研究資料として取り上げられています。なお、本資料は2020年に大木家より新発田市へ寄附されました。

山草荷遺跡の弥生土器は、大きく分けて東北部を中心とする川原町口式系、秋田県域を中心とする宇津ノ台式系、北陸地方を中心とする小松式系、中部高地の栗林式系という東西南北の4系統の土器群で構成されます。このうち、土器の主体を占めるのは、細い沈線で胴部に大きな渦文を描く川原町口式系の壺で、赤く彩色されたものも見られます。また、宇津ノ台式系に小松式系の要素が複合した土器の一群が明瞭に存在し、この土器群は本遺跡に特徴的な要素だと言えます。

本遺跡と同様に各系統の土器を安定的に組成する遺跡は、新潟平野北部で特徴的に認められており、当地域を介した諸地域の交流も推察されます。

本土器群は、新潟県の弥生土器研究の嚆矢としての学史的な価値に加えて、当地域の弥生時代中期の遺跡の特徴を顕著に示す資料であると評価できます。

（新発田市教育委員会 鈴木 暁）



山草荷遺跡の弥生土器



川原町口式系の壺の文様



埋文にいがた 第128号 2025年11月28日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。